

令和4年度特別企画展 「守るひと 町田久成展」の開催について

芸術や文化なくして、平和と呼べるだろうか。

富国強兵の時代に、心の豊かさという価値を求めて。

「町田久成」の子孫とともにゆかりの地を訪ね、久成の遺伝子を引き継ぐ人々の生の声を集めたドキュメンタリー映像を目玉に、パネルや貴重な資料をもとに久成が本当に守りたかったものを追いかけます。

薩摩の名家に生まれ、若くして江戸で学び、薩摩スチューデントの監督役として、英国に渡った町田久成。帰国後は明治新政府の官僚として外交に従事するも不条理な左遷の憂き目に。その後、日本各地に残された古器旧物の文化的・芸術的な価値を後世に伝えるため調査を行い、上野の森に日本初の博物館（後の東京国立博物館）を誕生させ初代館長を務めた。その7か月後、久成は突如館長を辞任し、滋賀の三井寺子院・光浄院の住職に。果たして、久成は何を守り、令和の時代に何を伝えようとしたのか、現代を生きる子孫や関係書の声を集めながらその答えを探ります。

守ることしか、創れない未来があった。

守る人

Hisanari Machida
EXHIBITION 2023

薩摩藩英国留学生記念館 令和4年度特別企画展

町田久成展

2023.1.28^{SAT} ▶ 6.26^{MON}

会場：薩摩藩英国留学生記念館

町田久成

1838 - 1897



芸術や文化なくして、平和と呼べるのだろうか。
富国強兵の時代に、心の豊かさという価値を求めて。



時代が江戸から明治に変わり、文明開化の名の下に急激な西洋化が進む中、日本の歴史的文化財は危機的状況に置かれていた。また神仏分離による廃仏毀釈の嵐は全国に広がりを、仏像をはじめとする仏教芸術品が各地で焼き払われたり安眠で海外へと搬出されていた。この時代の流れに異議を唱え、日本の文化財の保護を志した一人の薩摩人がいた。彼の名前は町田久成。薩摩藩の名家に生まれた彼は、若くして江戸で学び、薩摩スチューデントを率い英国へと渡った。帰国後は、明治政府の官僚として外交に従事するも平素素直な左遷の憂き目にあう。町田久成の博物館建設の夢はここからスタートした。日本各地に残された古器旧物の文化的・芸術的な価値を徹骨に伝えるため、時に私財を投じて力を尽くした。150年前の1872年、現在の東京国立博物館の礎となる、創久的な展示を目的とした日本初の博覧会を徳島県で開催。同郷の大久保利通のサポートを受けながら、1882年には上野の森に日本初の博物館を誕生させた。しかし久成は初代館長に任命されるも直ぐに辞職。突然、仏門に入り、59歳の生涯を終えるまで、臨濟の三井寺子院・光浄院の住職を務めた。町田久成は、何を守り、何を捨て、何を託しようとしたのだろうか？



その男には、150年後の日本が見えていたのか。
日本初の博物館を創設した男のDNAを求めて。

2022年、創立150年を迎えた日本最大級の博物館、東京国立博物館の中庭にある初代館長・町田久成の銅像。日本を代表する彫刻家・中村青作の銅像は、町田久成の子孫によって2016年に建てられている。「町田久成展」では、久成ゆかりの地を、子孫とともに訪ね、様々な形で久成の遺伝を受け継ぐ人々の声を集めたドキュメンタリー映像しほろろ展示で、久成が未だに守りたかったものを追いかけている。



Hisanari Machida
EXHIBITION 2023



東京国立博物館 企画
東京国立博物館 企画「Cafe」